

経営比較分析表（令和3年度決算）

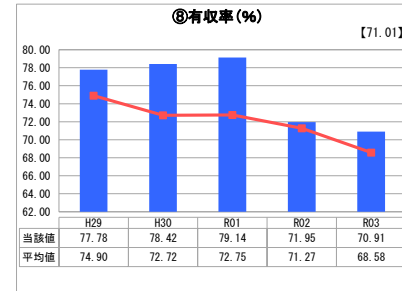
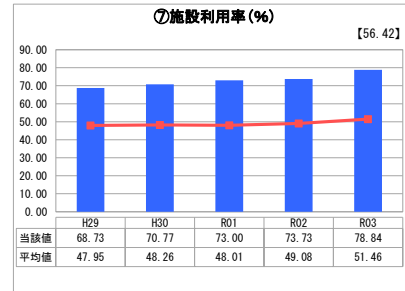
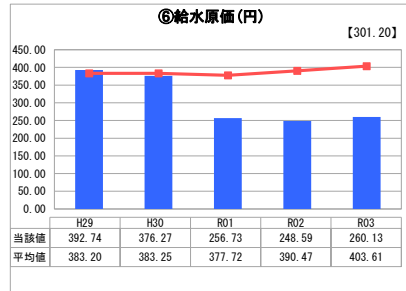
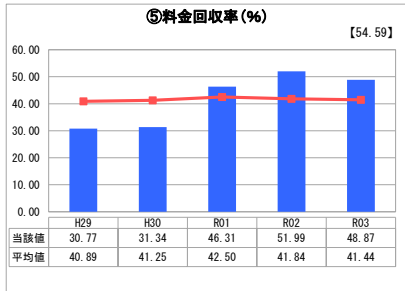
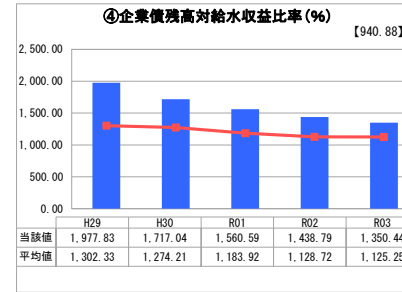
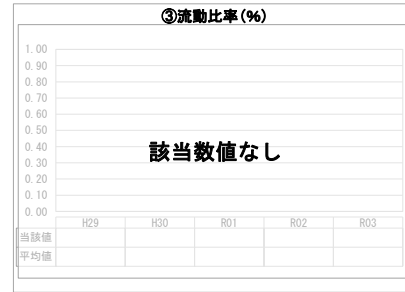
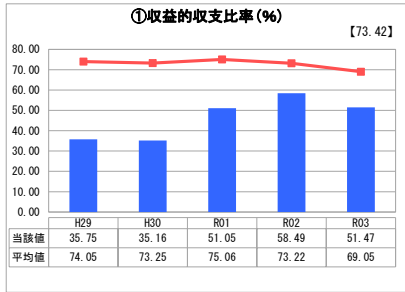
北海道 西興部村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	96.05	2,970	

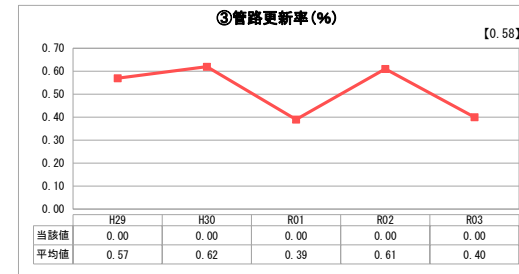
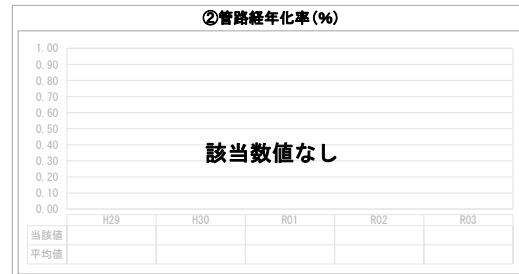
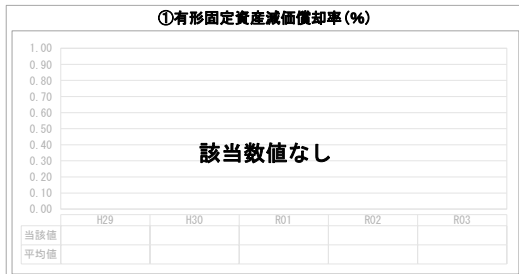
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,033	308.08	3.35
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
997	9.52	104.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析概

1. 経営の健全性・効率性について

平成17年度、18年度にて区域拡張工事に伴い、浄水場等の施設の新設工事を実施した。
 企業債残高については、主に上記工事に伴うものである。
 令和3年度については料金収入は増したが消費税還付金、繰入金の減により総収益は減となり、消費税の支払、電気料高騰による光熱費、委託料の増により総費用が増になっている。
 簡易水道事業を運営するには、本来であれば料金収入をもって賄う事が当然であるが、小規模自治体であり、料金収入だけで賄うと住民の負担増となってしまうことから、一般会計繰入金が不可欠となっているのが現状である。

2. 老朽化の状況について

昭和46年当時の管路が法定耐用年数50年を経過しているが、更新費用の面から漏水等の判明次第修繕で対応しているのが現状である。

全体総括

今後も有収率の向上を目指し、主にソフト面の広域化検討も視野に入れ、無駄なく適正な維持管理に努める。